

令和元年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標 21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 (学校経営ビジョン) 「ものづくりによる人づくり」部活動による人づくりを柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり	2 本年度の重点目標 ① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実 ③ 部活動の参加率・定着率の向上と活動の活性化 ④ 規範意識の高揚と基本的な生活習慣の定着	⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実 ⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上 ⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦
---	---	--

3 目標・評価

① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	・いじめ問題の早期発見のためのアンケートを学期に1回実施する ・いじめ問題が発生しないための環境づくりと啓発に取り組む	・いじめアンケートを学期に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 ・いじめ問題等が発生しないよう、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育てる。

② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
活動教育	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	・「ものづくり」をとおして地域に貢献する。	・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元のイベントでものづくり体験教室を行いものづくりの楽しさをPRする。

③ 部活動の参加率・定着率の向上と活動の活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	・部活動への参加を奨励する。参加率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年生の入部率を向上させる。 ・特に1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員入部を経て、部活動の魅力や味あわせ、充実した学校生活に役立たせる。 ・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。

④ 規範意識の高揚と基本的な生活習慣の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	・年13回、10分間の「ヒューマントレーニング」を定期的実施し、テーマを生徒に熟考させる。 ・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、感じたままを記入して提出させ、担任・教務などで検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。
		ボランティア活動への積極的参加と、自発的あいさつの推進	・「地域の美化に貢献する学校」を目指す。各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。 ・校内でのあいさつだけでなく、登下校時の唐工坂での自動車に対する会釈を普及させる。	・週に2回、部活動未入部生による学校周辺の放課後清掃活動を実施する。 ・唐津特別支援学校への行事参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。 ・生徒会による定期的な放送、登下校時の立ち番、生徒総会などで挨拶について呼びかける。
	●学力向上	授業態度の改善	・授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。 ・学習評価において、授業態度を重視することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。
	○生徒指導	規範意識の向上	・地域社会におけるポイ捨て防止 ・自転車乗車マナー向上 ・公共機関利用モラル・マナー向上 ・SNS利用モラル・マナー向上	・粘り強い呼びかけ ・見逃さない対応 ・講話などの活用 ・生徒同士の指導

⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	進路希望の実現	・基礎学力・コミュニケーション能力を向上させ、進路実現100%を達成する ・1年次から適切な進路情報を提供し、生徒が自らの将来について考え、進路希望を実現するため、主体的に進路を選択できるようにする。	・授業を大切に、家庭学習の習慣を身に付けさせる。生徒の就職・進学の実現を目指して基礎学力の向上を図る。 ・進路選択のための適切な情報を提供し、生徒の主体的な進路決定の手助けとする。 ・会社訪問を行い、求人会社の情報を希望する生徒にタイムリーに提供する。 ・インターンシップ事業を充実させ、将来の進路選択の幅をひろげる。
	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	・生徒に確かな基礎学力を身につけさせる。 ・進学、就職試験の合格率100%を達成する。 ・進路選択のミスマッチが発生しないよう、個々に応じた適切な進路指導を行う。	・「数学会」は、数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日2名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 ・進学、就職試験の合格率100%を達成するため、日ごろの授業の充実や小テストの実施をとおして基礎学力の向上を図る。

⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発。	・職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。 ・ゴミの減量化と資源物(紙類)の回収を実施する。	・清掃の時間は全生徒・全職員がともに掃除に取り組み、生活環境の美化につとめ、進んで奉仕的活動に取り組む意識を持つ。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 ・環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。
	○安全教育	施設の安全点検と実習等の安全作業	・安全点検を実施し、必要な対策を行う。 ・実習棟の整理・整頓と安全な実習運営。	・毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。 ・実習や課題研究では安全作業と適切な服装での作業を徹底する。

⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
活動教育	○資格取得	資格取得の推進と各種コンテストへの参加の推奨	・資格試験の合格率を前年度より10%アップする。 ・ジュニアマイスター関連のコンテストへの参加を勧奨する。	・「資格取得ハンドブック」を有効に活用し、学年で最低2つ以上の資格を取得させる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。 ・各科を通して、生徒にコンテストの紹介をする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
活動教育	●健康・体づくり	健康の自己管理能力向上の推進	・保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	・保護者や生徒の重点目標の周知度を80%以上に上げる。 ・学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上に上げる。	・保護者に対しては、PTA総会、唐工ニュースで周知を図る。 ・重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 ・学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	・高校入試志願率の向上 (一般入試で定員の1.2倍以上を確保)	・唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。 ・体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を用い、生徒に分かりやすい説明を行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・全分掌について業務内容を見直し、効率的な業務遂行を工夫する。	・分掌ごとに業務改善案を立案し、取組状況について学期毎に主任より管理職へ報告をする。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目